

みよし

第1章 三好市の歴史的風致形成の背景

1. 自然的環境

(1) 位置

本市は、徳島県の西端にあり、西は愛媛県、南は高知県、北は香川県に接して四国のほぼ中央に位置している。

東西に約39km、南北に36kmあり、面積は721.42Km²の四国一の広い面積を誇り、徳島県の17.4%を占めている。

三好市役所は、東経133度48分39秒、北緯34度01分24秒に位置する。

■三好市の位置



■市の各町村の位置



(2) 地形

本市は、讃岐山脈さぬきの標高700～1,000mの山峰がなす尾根筋が北部境界となり、南部は標高1,400m～1,900mの四国山脈の高峰を結ぶ尾根筋を主たる境界とする。北を讃岐山脈、南を四国山脈とする市域には、吉野川よしのがわが南から入って深い峡谷が北流し、川幅を増しながら池田町いけだちようで東に向きを変え、讃岐山脈と四国山脈境の洪積台地に東西に延びる狭小な沖積平野を形成している。このように市域の大部分は丘陵ならびに山地となっており、可住地は吉野川の沿線とその支流の谷合に点在しており、その面積は約13%と低く、ほとんどが急峻な山地で形成されている。

凡 例	
	高速自動車道
	国道
	県道
	J R 線
	市 域
	旧 町 村
	100m以下
	100m以上200m未満
	200m以上500m未満
	500m以上1000m未満
	1000m以上1500m未満
	1500m以上
	集 落



(3) 河川

本市には、高知県から徳島県を流れる、全長194km、流域面積3,750Km²の一級河川、吉野川が通っており、吉野川水系の支流が河川に流れている。北を讃岐山脈、南を四国山脈とする市域には、吉野川が南から入って四国山脈に深い峡谷をつくりながら北流し、祖谷川等と合流して川幅を増しながら池田町で東に向きを変え、讃岐山脈と四国山脈境の洪積台地に、東西に延びる狭小な沖積平野を形成している。

昭和42年には、吉野川水系における水資源開発基本計画が閣議決定され、昭和50年には香川県への分水が開始されるなど、古くより利用してきた徳島県も含めた重要水源となっており、三好市は勿論、徳島県にとっての母なる川と呼ぶに相応しい河川である。



(4) 気象

吉野川から讃岐山脈にかけての地域である池田地域^{せとないかい}は、瀬戸内海型気候であるため7月、8月の降水量が著しく減少する特徴が見られることから、祖谷地域^{いや}の年間平均降水量約200mmに対し、池田地域の年間平均降水量は約140mmと少ない。

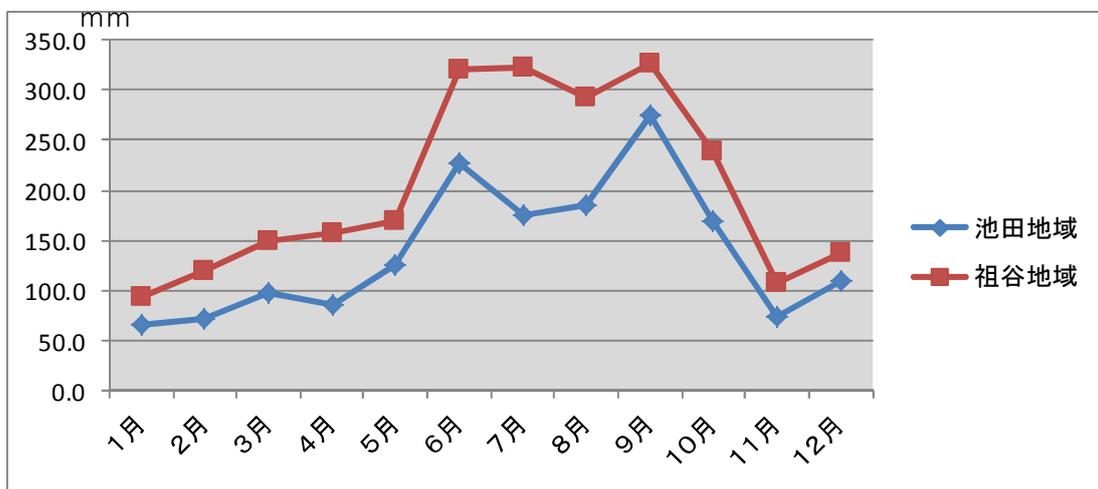
尚、気温は剣山^{つるぎさん}を中心とする山岳部の祖谷地域は、日本海側気候であり冬型気候に分類されるため1月、2月には降雪もあり気温も1年の平均気温は12℃と池田地域の平均気温14℃より若干低い。こうしたことから、地域別において気温や降水量に違いがある。

■市内観測地点の月別平均降水量

(単位:mm)

降水量	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
池田地域	65.3	70.9	96.4	86.1	125.8	227.9	174.4	185.8	275.1	170.1	73.5	109.5
祖谷地域	93.2	119.7	148.7	156.3	170.0	319.7	322.1	292.8	326.2	238.8	107.0	137.8

(資料:気象庁 徳島県平成20年(2008)～平成29年(2017)までの平均値)

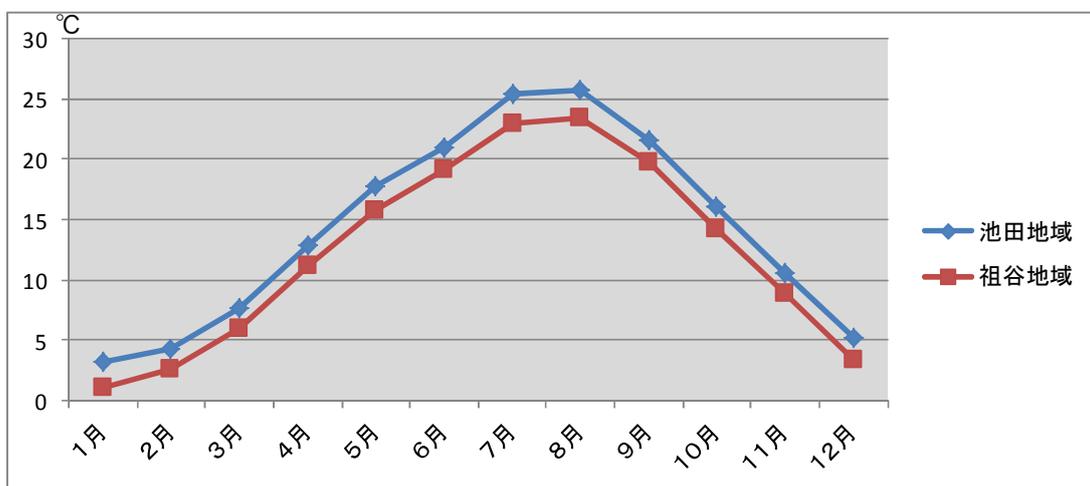


■市内観測地点の月別平均気温

(単位:℃)

平均気温	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
池田地域	3.2	4.2	7.6	12.9	17.8	21	25.4	25.7	21.6	16.1	10.5	5.2
祖谷地域	1.1	2.6	6	11.1	15.8	19.1	23	23.4	19.7	14.3	8.8	3.3

(資料:気象庁 徳島県平成20年(2008)～平成29年(2017)までの平均値)



2. 社会的環境

(1) 変遷

三野町の経緯は、明治12年の郡区町村編成法により郡制が施行され、清水、加茂野宮、勢力、芝生及び太刀野、太刀野山が合併し明治22年に三野村が発足した。その後、大正13年1月26日には三野町と名称変更した。

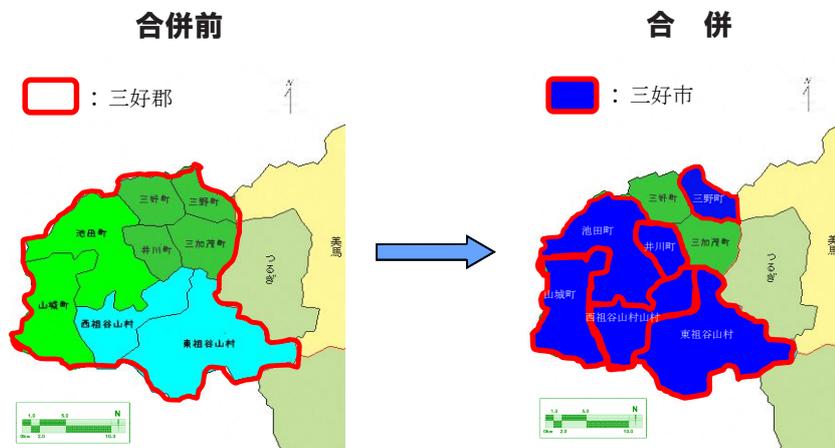
池田町の経緯は、明治22年の市町村制施行に伴い、箸蔵村、池田村、三縄村、佐馬地村の4村がそれぞれ誕生した。(池田村は明治38年10月1日池田町に名称変更)その後、町村合併促進法の施行により、昭和31年9月30日に箸蔵村が池田町に編入合併され、続いて昭和34年3月31日に池田町、三縄村、佐馬地村が合併し、池田町が発足した。

山城町の経緯は、明治12年の郡区町村編成法により、山城谷村、上名村、下名村、西宇村であったものが、明治22年の市町村制施行に伴い、上名村、下名村、西宇村の3村が合併して三名村が発足した。その後、町村合併促進法の施行により、昭和31年9月30日に山城谷村と三名村が合併し、山城町が発足した。

井川町の経緯は、明治12年の郡区町村編成法により、東井川村、西井川村、井内谷村の3村となり、明治22年の市町村制施行に伴い東井川村と西井川村が井川村に、明治40年には井川村は辻町となる。その後、1町1村が長く続いたが、昭和34年4月1日に井内谷村と辻町が合併し、井川町が発足した。

東祖谷山村・西祖谷山村の経緯は、古くから美馬郡に属した祖谷山は、明治12年の郡区町村編成法により東西に分離し、明治22年の新しい市町村制施行に伴い、明治22年10月1日に東祖谷山村・西祖谷山村それぞれが発足した。その後、昭和25年1月1日からは、美馬郡から三好郡に編入された。

こうした経緯を経て、平成の大合併が進展するなか、平18(2006)年3月1日、6町村が合併して、新しく三好市が誕生した。



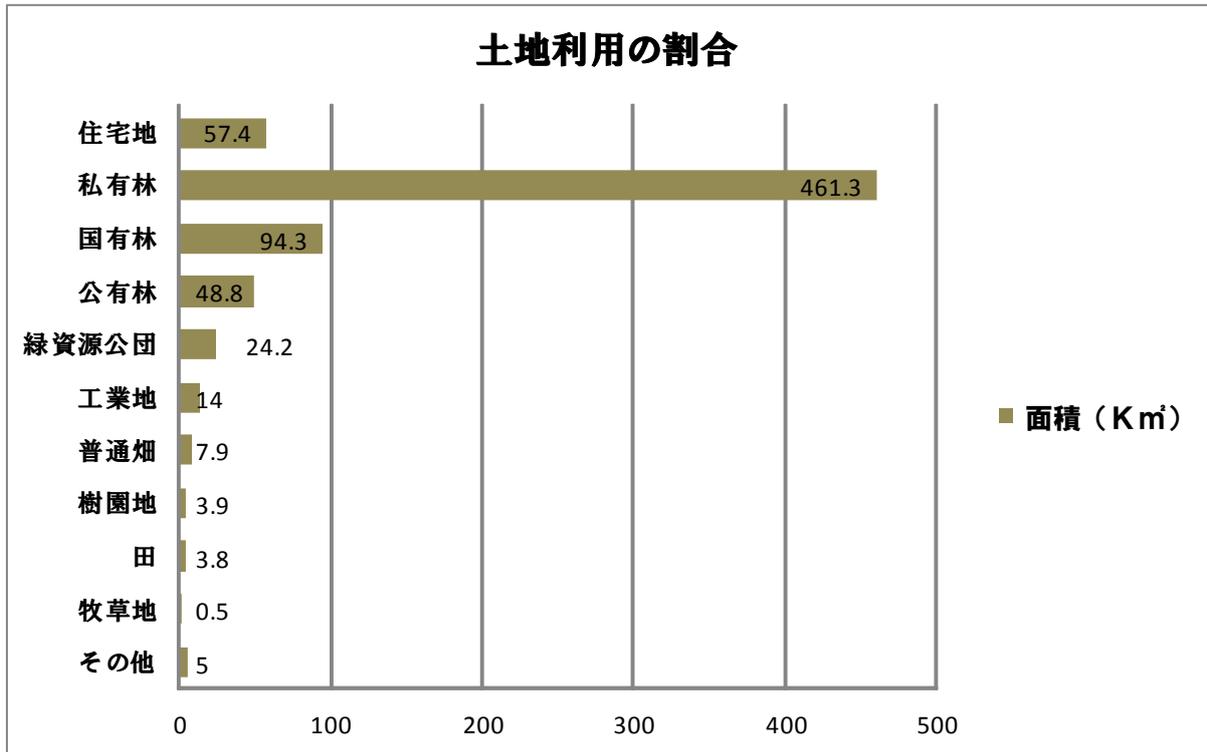
(2) 土地利用

本市の土地利用は、大部分が山林等の自然的な土地利用で占められているが、時代の変化や都市化の進展とともに土地利用も変化し、中心市街地の空洞化や農業地域の耕作放棄地の増加、中山間地域の過疎化の進行、森林の荒廃など、郷土の景観や地域環境への影響が懸念されている。

豊かな自然環境の中で、自然と共生してきた先人の知恵と営みを継承し、「人と自然」との共存・調和を図りながら、環境と共生する適正な観光開発を行うなど、地域の特性に応じた計画的な土地利用を進めている。

■市の土地利用





資料：三好市農業振興地域整備計画



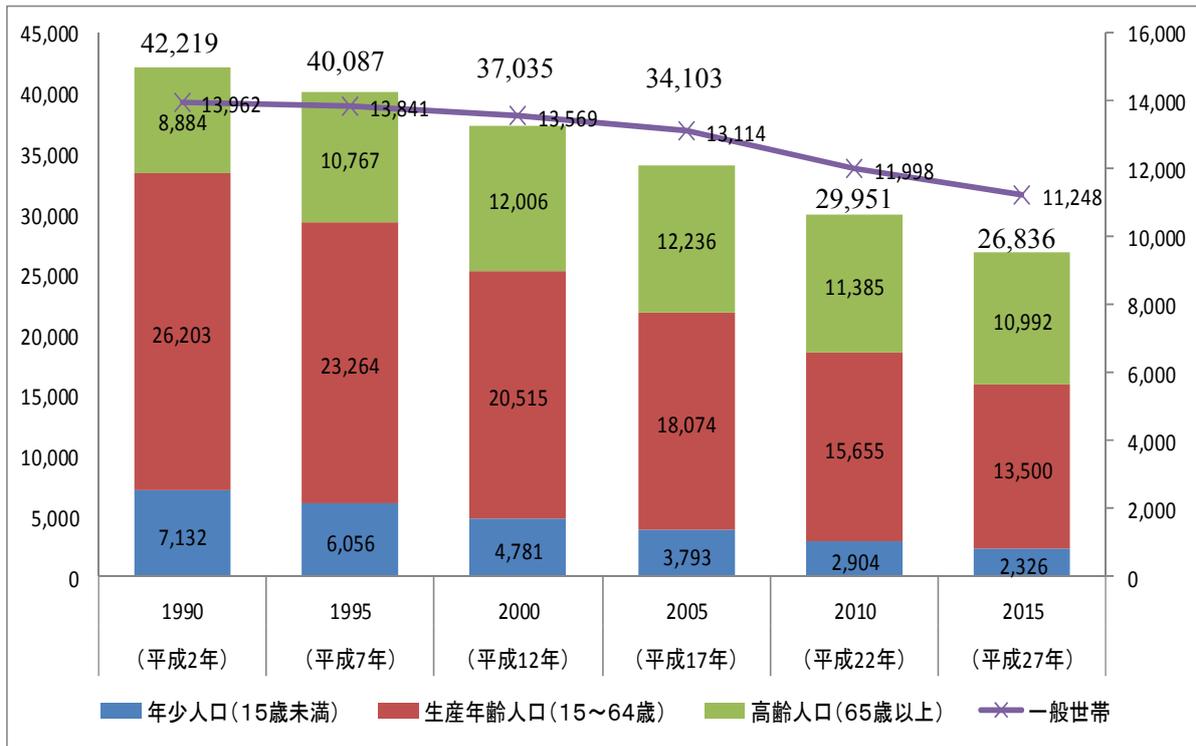
■大部分が山林等の自然的な土地の利用である

(3) 人口動態

本市の総人口は、平成18年(2006)の市発足以降も減少を続け、国勢調査結果によると平成17年(2005)の34,103人から平成27年(2015)の26,836人と大幅に減少しており、人口減少、少子高齢化が進んでいる。

■市の人口動態

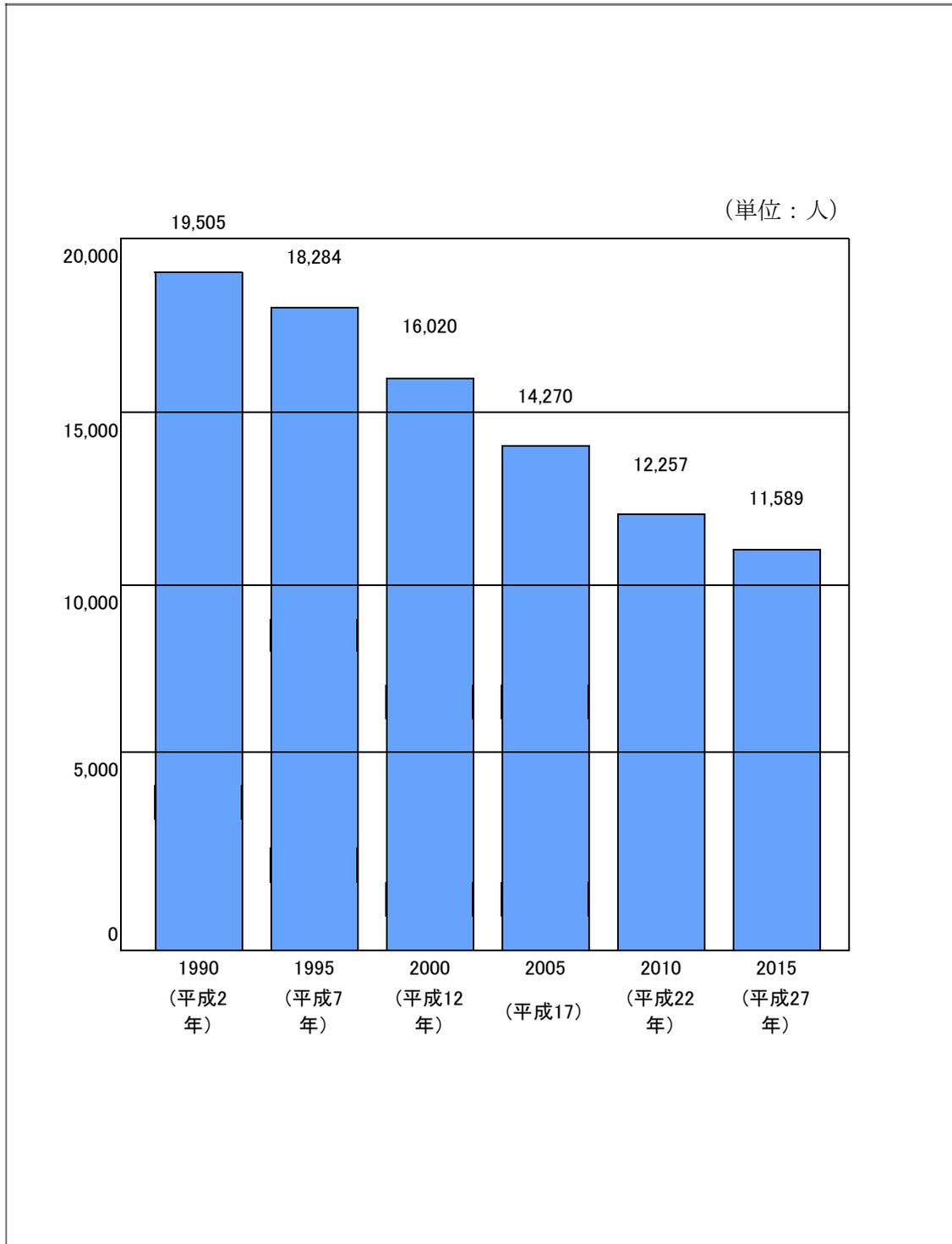
(単位：人・世帯)



資料：国勢調査

就業者人口も、減少を続けており、国勢調査結果によると平成17年（2005）の14,270人から平成27年（2015）の11,589人と大幅に減少している。

■市の就業人口



資料：国勢調査 ※2005（平成17年）以前は6町村の合計、総数には分類不能も含む

(4) 交通機関

公共交通は池田地域を中心にしたネットワークが形成されている。

◎鉄道

鉄道は東西に徳島本線が国道192号と並行し、南北に土讃線が国道32号と並行して走っており、池田地域にある阿波池田駅が2路線の重要な乗換駅となっている。

市内には全部で10駅あり、特急列車停車駅は阿波池田駅、大歩危駅の2駅となっている。徳島方面へ21便（うち特急6便）、岡山・高知方面へ27便（うち特急19便）が運行されている。

◎自動車交通

幹線道路は東西に連絡する国道192号（日交通量6～18千台）、主要地方道 鳴門池田線（10～16千台）、徳島自動車道（5～6千台）、南北を連絡する国道32号（日交通量3～25千台）がある。地域連絡道路としては、国道439号、主要地方道 山城東祖谷山線、西祖谷山山城線があり、これらを補完する形で国道319号、県道で構成されている。全体的には東西方向の交通（愛媛・四国中央市～徳島方面）が主流となっている。幹線道路の混雑度※をみると、池田地域の中心部周辺における国道32号

（1.43）とこれに並行して縦断する主要地方道観音寺池田線（1.65）が高くなっている。主要幹線となっている国道32号ならびに地域間連絡となっている路線のほとんどの区間においては異常気象時における通行止め規制が設定されている。このようなことから、国道32号では香川へ連絡する猪ノ鼻道路（L=9.1km）や改築防災（大歩危工区L=2.5km）の整備、また国道319号（山城拡幅L=4.5km）、国道439号（落合バイパスL=1.8km）等の整備が進められている。

※道路の混み具合を表す数値（1.00以下：道路が混雑することなく円滑に走行できる・1.00～1.25：道路が混雑する可能性が1～2時間あるものの、何時間も混雑する可能性は小さい・1.25～1.75：混雑する時間帯（ピーク時）を中心として加速度的に増加する可能性が高い状態）

■市の鉄道及び自動車道

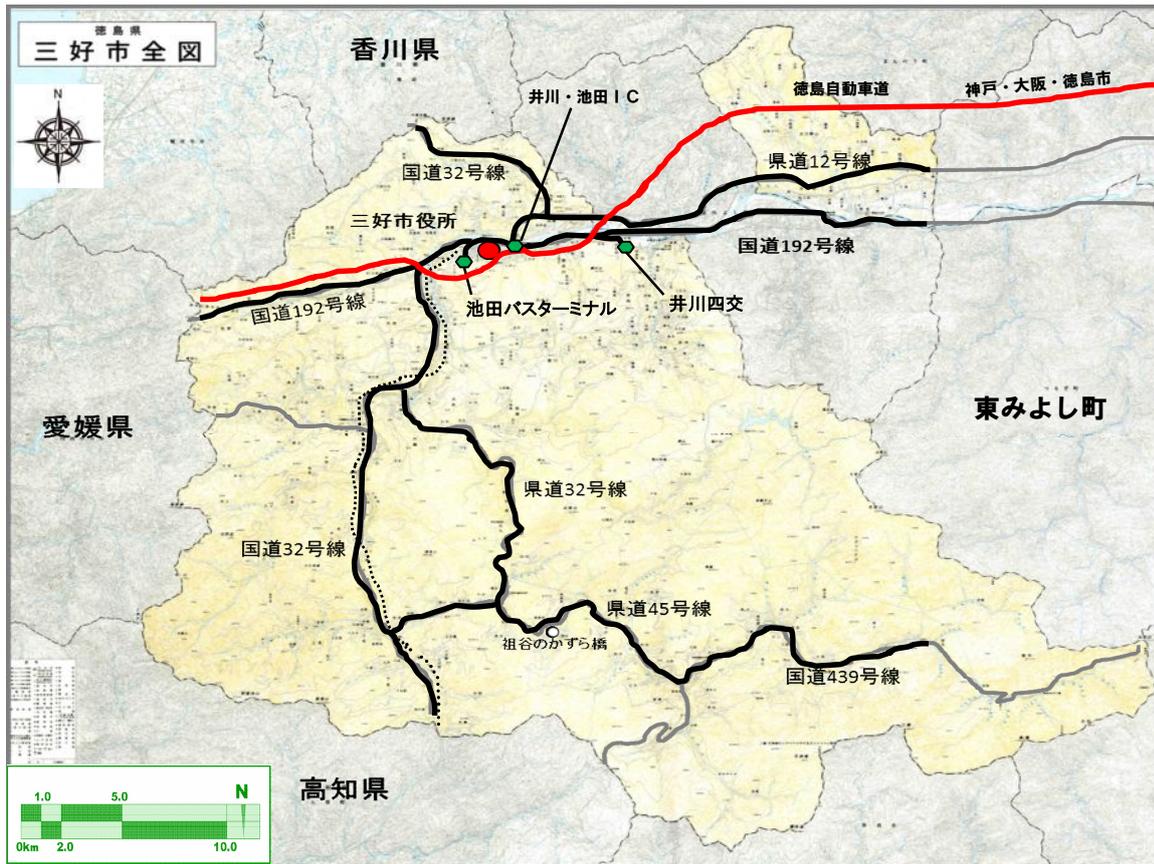


◎バス

高速バスは、四国交通本社前、池田バスターミナルを発着点として、大阪6往復、神戸3往復が運行されている。

路線バスは四国交通、三好市営バスが池田バスターミナルを中心に池田～山城・祖谷方面、井川～三野方面へ運行されている。また、公共交通が無い地域については通院・通学・買物等の交通へ対応として、委託による路線バス及びスクールバスを運行している。

■市のバス路線



■土讃線を走る列車



■県道32号線（旧祖谷街道）を走る四国交通バス

(5) 産業

本市の冷涼な気候は、葉タバコの生産に適しており江戸時代から阿波の葉タバコが生産が盛んであった。山間部で生産された葉タバコは、その集積地の井川や池田地域で「刻みタバコ」となり、火付きの良さが好まれたことから、全国各地に販路を広げ、この地方の代表的な産業となった。

吉野川流域の池田、井川、三野地域では湧き水を利用した醸造業（酒・醤油など）も盛んで、良質の製品を産出してきた。

^むや 撫養街道沿いの平坦部では稲作、麦作、果樹、養蚕、藍作が盛んで、山城、祖谷地域の山間部では寒暖の気象条件を活かした茶の栽培、焼畑による蕎麦、稗、炭、三^{そば} ^{ひえ} ^{みつまた} 榎が主要産業であった。

現在は、平坦部では野菜、イチゴが、山間部では茶、ゆず、トマト、山菜、椎茸等の栽培が盛んである。

また、古くから四国山地一帯は豊富な森林資源に恵まれ、林業が盛んであり、吉野川、祖谷川は用材の搬出路となっていた。現在でも森林面積は、総面積の約87%を占めており現在も貴重な地域資源となっている。



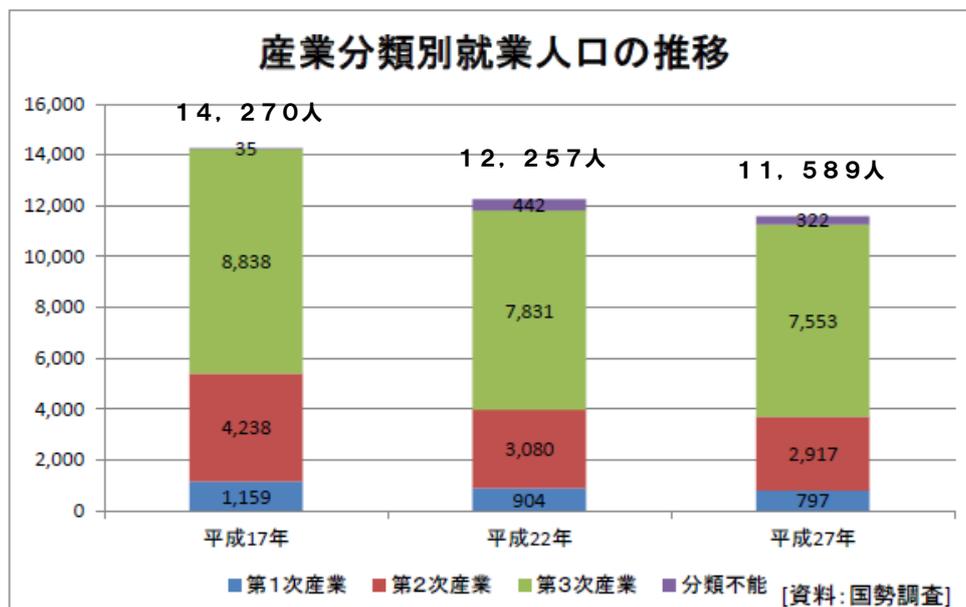
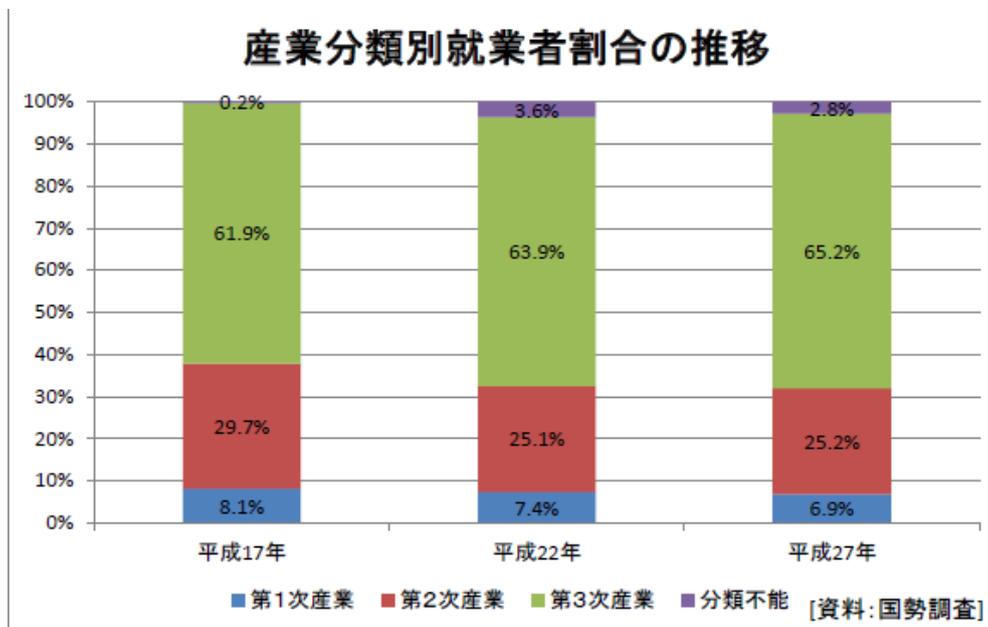
■森林面積を多く有する三好市（池田町白地からの展望）

◎産業の特性

国勢調査の結果によると、本市の産業分類別就業人口は減少を続けており、平成27年には11,589人となり、平成17年と比較して2,681人（18.8%）減少している。

大分類別で見ると、平成17年から平成27年にかけて、すべての産業で就業人口は減少傾向となっているが、第1次産業と第2次産業における減少が著しくなっている。なかでも第1次産業は362人（31.2%）、第2次産業は1,321人（31.2%）の大幅な減少傾向を示している。第1次産業のなかでも林業就業人口については増加傾向となっているが、農業就業人口については大幅に減少している。第2次産業については建設業就業人口が大幅な減少となっている。第3次産業でも減少傾向にあるが、1,285人（17.0%）の減少にとどまっており、医療、福祉業の就業人口が増加傾向となっている。

平成27年における産業別割合を徳島県（23.4%）と比較すると、第2次産業で1.8%程度高くなっている。



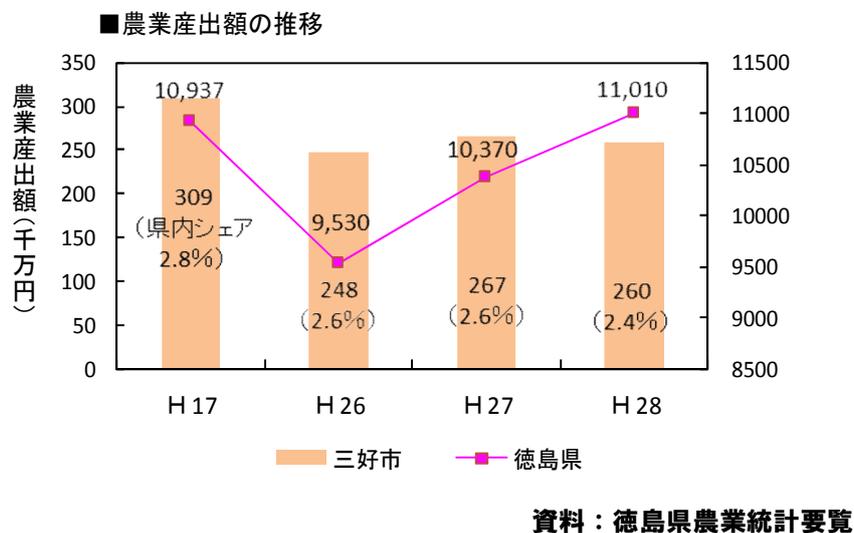
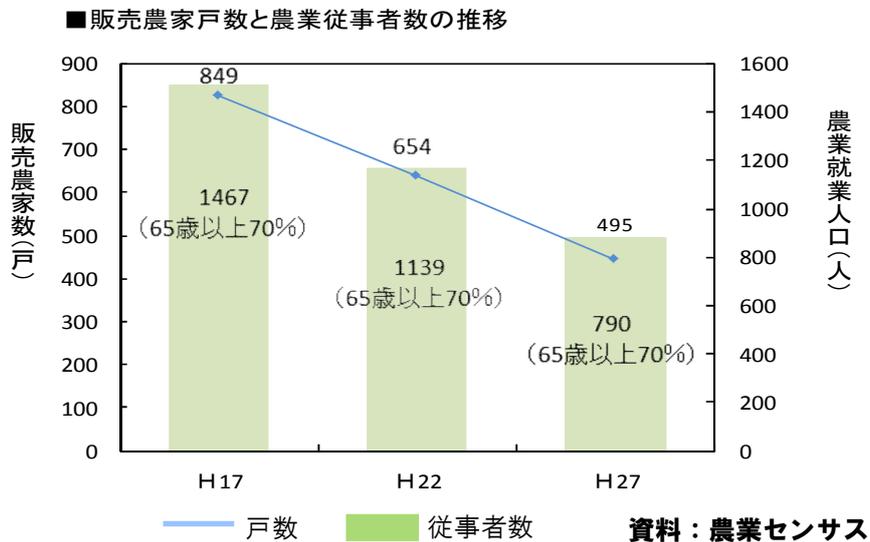
◎農業

農業就業者は年々減少と高齢化傾向を示しており、平成27年における販売農家数は495戸、農業就業人口（自営農業に主に従事した人）は790人（高齢化率70%）となっており、平成17年に比べほぼ半減している。

農業産出額は、平成28年で26億円（県内シェア2.4%）と平成17年に比べて4.9億円（16%）減少している。

平成28年の農業産出額の上位は、鶏（ブロイラー）33.8%、野菜21.2%、果実16.5%、肉用牛7.3%、米6.5%が上位5品目である。

地域別割合でみると経営耕地面積は、三野57%、山城16%、池田14%、販売農家数は、三野49%、山城19%、池田15%となっており三野地域が市内の農業生産の中心となっている。



◎工業

平成29年における製造品出荷額（従業員数4人以上）は254.6億円で、概ね横ばいで推移している。県シェアで見ると1.5%と県全体での占める割合は小さい状況となっている。

製造品出荷額の推移では、2010年までは増加がみられ、約263億円となっているが、2013年には約230億円にまで減少している。2017年には約255億円まで回復している。

事業所数は、食料品製造業が12事業所と最も多く、次いで木材・木製品製造業(家具をのぞく)、繊維工業の順に多くなっている。

従業者数はパルプ・紙・紙加工品製造業が205人と最も多く、次いでプラスチック製品製造業(※1 [P18])を除く)が198人、繊維工業166人の順に多くなっている。

■製造品出荷額の推移



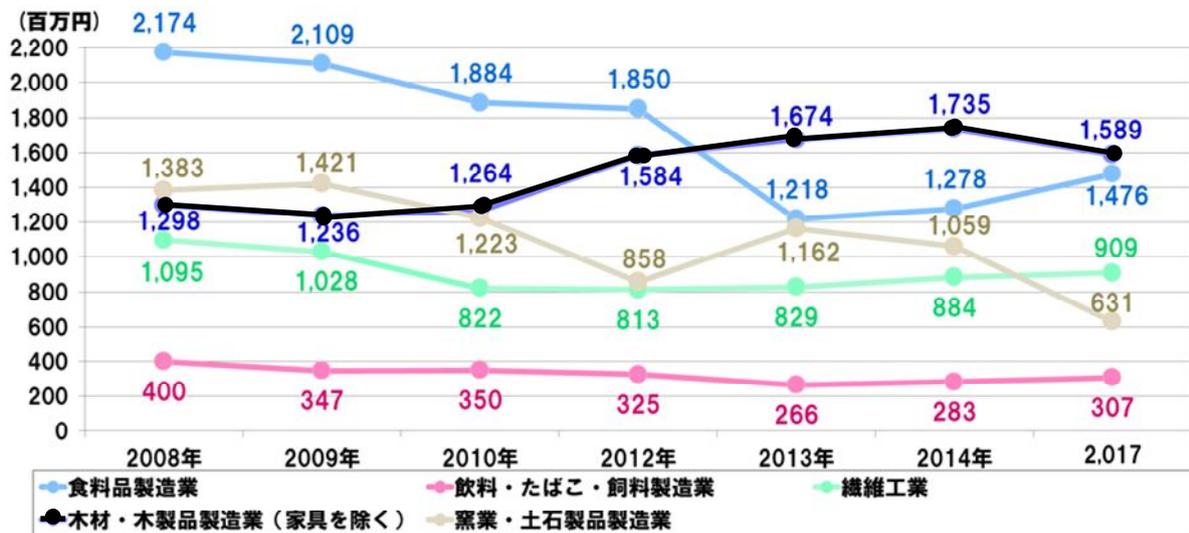
資料：2017年工業統計

■製造品出荷額の県内シェア割合

(単位: 百万円)

	三好市	徳島県	県内割合(シェア)
H20(2008)	25,884	1,760,258	1.5%
H21(2009)	25,914	1,570,055	1.7%
H22(2010)	26,282	1,675,574	1.6%
H24(2012)	24,465	1,680,331	1.5%
H25(2013)	23,051	1,712,207	1.3%
H26(2014)	24,788	1,783,863	1.4%
H29(2017)	25,456	1,700,234	1.5%

■製造品出荷額内訳の推移



資料：2017年度工業統計

■産業中分類別統計表

産業分類	事業所数		従業員数		製造品出荷額	
	(事業所)	構成比(%)	(人)	構成比(%)	(万円)	構成比(%)
製造業計	45	100%	1,164	100%	2,545,634	100%
食料品製造業	12	27%	122	10%	147,632	6%
飲料・たばこ・飼料製造業	4	10%	35	3%	30,655	1%
繊維工業	6	13%	166	14%	90,852	4%
木材・木製品製造業(家具を除く)	7	16%	111	10%	158,876	6%
パルプ・紙・紙加工品製造業	2	4%	205	18%	X	X
印刷・同関連業	2	4%	103	9%	X	X
化学工業	1	2%	23	2%	X	X
プラスチック製品製造業(※1を除く)	2	4%	198	17%	X	X
窯業・土石製品製造業	4	10%	51	4%	63,139	2%
鉄鋼業	1	2%	62	5%	X	X
金属製品製造業	1	2%	37	3%	X	X
電気機械器具製造業	2	4%	46	4%	X	X
その他の製造業	1	2%	5	1%	X	X

X：企業が特定されるため非表示(総務省統計局)
資料：2017年度工業統計

※1については次の通りである。

家具・装飾品	がん具・運動用具	と石
プラスチック製版	ペン・鉛筆・絵画用品・その他の事務用品	模造真珠
畳	目盛りのついた三角定規	歯車
手袋	写真フィルム(乾板を含む)	漆器
耐火物	うちわ・扇子・ちようちん	注射筒
ほうき・ブラシ	喫煙用具(貴金属・宝石製を除く)	パレット
義歯	装身具・装飾品・ボタン・同関連品(貴金属・宝石製を除く)	モデル・模型
洋傘・和傘・同部分品	かつら	工業用模型
魔法瓶	時計側	レコード
香板・標識機	楽器	眼鏡

資料：2017年度工業統計

◎商業

年間商品販売額は2007年から2012年に大幅に減少し、その後も減少傾向にあったが、近年では若干の増加傾向にある。平成28年における年間商品販売額は290.2億円で、県内シェア1.8%となっている。

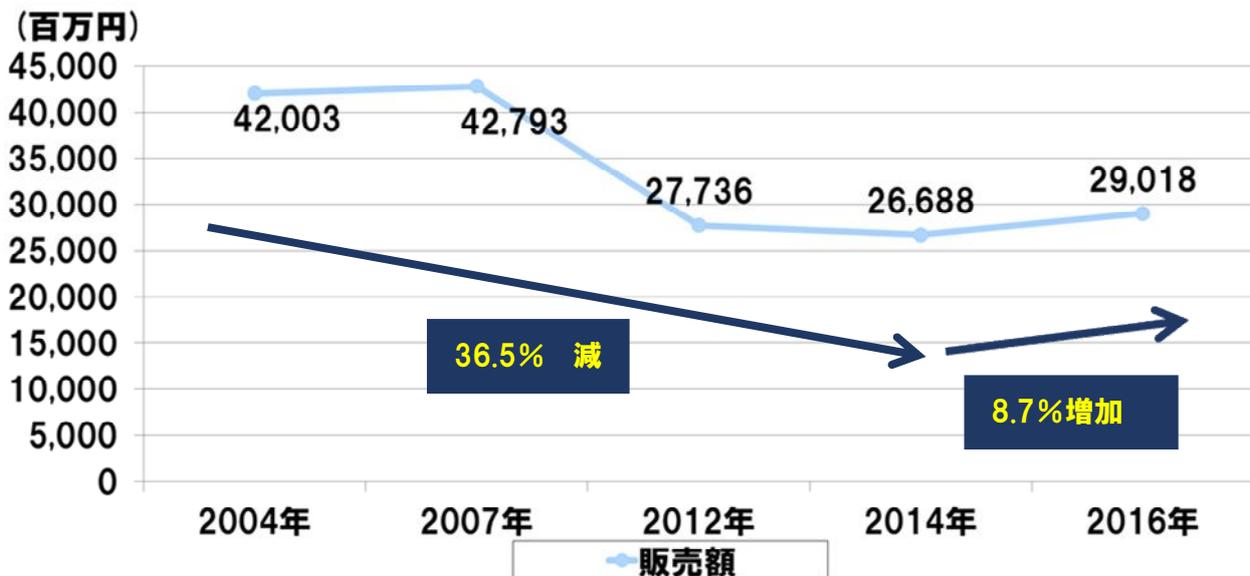
卸売業では、建築材料、鉱物・金属材料卸売業44.0%、機械器具卸売業25.8%、飲食料品卸売業24.4%などが上位を占めている。

また、小売業では飲食料品小売業39.6%、機械器具小売業12.9%が過半数(52.5%)となっている。

卸売業産業分類別事業所数では、食料・食料卸売業、建築材料卸売業、自動車卸売業の順に多くなっています。従業者数では、食料・食料卸売業、化学製品卸売業、医薬品・化粧品等卸売業の順に多くなっている。

小売業産業分類別事業所数では、その他の飲食料品小売業、自動車小売業と燃料小売業の順に多くなっている。従業者数では、その他の食料品小売業、各種飲食料品小売業、他に分類されない小売業の順に多くなっている。

■年間販売額推移



(資料：2004年、2007年、2014年は商業統計、2012年、2016年は経済センサス活動調査)

■年間販売額県内シェア割合

単位：百万円

	三好市	徳島県	県内割合
2004年	42,003	1,762,088	2.4%
2007年	42,793	1,661,534	2.6%
2012年	27,736	1,274,631	2.2%
2014年	26,688	1,343,338	2.0%
2016年	29,018	1,584,155	1.8%

■卸売業産業分類別事業所数、従業者数、年間商品販売額

産業分類	事業所数		従業者数		年間商品販売額	
	(事業所数)	構成比(%)	(人)	構成比(%)	(百万円)	構成比(%)
卸売業計	43	100.0%	217	100.0%	9,252	100.0%
50 各種商品卸売業	-	-	-	-	-	-
51 繊維・衣服等卸売業	-	-	-	-	-	-
511 繊維品卸売業（衣服、身の回り品を除く）	-	-	-	-	-	-
512 衣服卸売業	-	-	-	-	-	-
513 身の回り品卸売業	-	-	-	-	-	-
52 飲食料品卸売業	14	32.6%	54	24.9%	2,254	24.4%
521 農畜産物・水産物卸売業	5	11.6%	21	9.7%	1,582	17.1%
522 食料・飲料卸売業	9	21.0%	33	15.2%	672	7.3%
53 建築材料、鉱物・金属材料等卸売業	12	27.9%	66	30.4%	4,071	44.0%
531 建築材料卸売業	7	16.3%	48	22.1%	2,433	26.3%
532 化学製品卸売業	2	4.7%	4	1.8%	X	x
533 石油・鉱物卸売業	3	6.9%	14	6.5%	X	x
534 鉄鋼製品卸売業	-	-	-	-	-	-
535 非鉄金属卸売業	-	-	-	-	-	-
536 再生資源卸売業	-	-	-	-	-	-
54 機械器具卸売業	7	16.3%	52	24.0%	2,387	25.8%
541 産業機械器具卸売業	2	4.7%	15	6.9%	X	x
542 自動車卸売業	4	9.3%	18	8.3%	307	3.3%
543 電気機械器具卸売業	1	2.3%	19	8.8%	X	x
549 その他の機械器具卸売業	-	-	-	-	-	-
55 その他の卸売業	10	23.2%	45	20.7%	539	5.8%
551 家具・建具・じゅう器等卸売業	-	-	-	-	-	-
552 医薬品・化粧品等卸売業	6	14.0%	16	7.4%	187	2.0%
553 紙・紙製品卸売業	1	2.3%	4	1.8%	X	x
559 他に分類されない卸売業	3	6.9%	25	11.5%	X	x

X：企業が特定されるため非表示（総務省統計局）

-：該当なし

資料：2017年度工業統計

■小売業産業分類別事業所数、従業者数、年間商品販売額

産業分類	事業所数		従業者数		年間商品販売額	
	(事業所数)	構成比(%)	(人)	構成比(%)	(百万円)	構成比(%)
小売業計	318	100.0%	1,236	100.0%	19,766	100.0%
56 各種商品小売業	1	0.3%	1	0.1%	X	X
561 百貨店、総合スーパー	-	-	-	-	-	-
569 その他の各種商品小売業（従業者が常時50人未満のもの）	1	0.3%	1	0.1%	X	X
57 繊維・衣服・身の回り品小売業	33	10.4%	83	6.7%	989	5.0%
571 呉服・服地・寝具小売業	5	1.6%	15	1.2%	37	0.2%
572 男子服小売業	2	0.6%	4	0.3%	X	X
573 婦人・子供服小売業	18	5.7%	43	3.5%	477	2.4%
574 靴・履物小売業	1	0.3%	1	0.1%	X	X
579 その他の繊維・衣服・身の回り品小売業	7	2.2%	20	1.6%	426	2.2%
58 飲食料品小売業	117	36.9%	518	41.9%	7,835	39.6%
581 各種食料品小売業	19	6.0%	173	14.0%	3,718	18.8%
582 野菜・果実小売業	4	1.3%	9	0.7%	X	X
583 食肉小売業	4	1.3%	33	2.7%	418	2.1%
584 鮮魚小売業	5	1.6%	9	0.7%	40	0.2%
585 酒小売業	20	6.3%	43	3.5%	675	3.4%
586 菓子・パン小売業	17	5.3%	45	3.6%	196	1.0%
589 その他の飲食料品小売業	48	15.1%	206	16.7%	X	X
59 機械器具小売業	48	15.1%	162	13.1%	2,546	12.9%
591 自動車小売業	28	8.8%	116	9.4%	2,182	11.0%
592 自転車小売業	2	0.6%	4	0.3%	X	X
593 機械器具小売業（自動車、自転車を除く）	18	5.7%	42	3.4%	X	X
60 その他の小売業	116	36.4%	457	37.0%	X	X
601 家具・建具・畳小売業	9	2.8%	21	1.7%	96	0.5%
602 じゅう器小売業	3	0.9%	5	0.4%	30	0.2%
603 医薬品・化粧品小売業	25	7.9%	86	7.0%	2,014	10.2%
604 農耕用品小売業	2	0.6%	8	0.6%	X	X
605 燃料小売業	28	8.8%	114	9.3%	4,064	20.6%
606 書籍・文房具小売業	8	2.5%	85	6.9%	396	2.0%
607 スポーツ用品・かん具・娯楽用品・楽器小売業	5	1.6%	15	1.2%	X	X
608 写真機・時計・眼鏡小売業	9	2.8%	19	1.5%	80	0.4%
609 他に分類されない小売業	27	8.5%	104	8.4%	X	X
61 無店舗小売業	3	0.9%	15	1.2%	47	0.2%
611 通信販売・訪問販売小売業	3	0.9%	15	1.2%	47	0.2%
612 自動販売機による小売業	-	-	-	-	-	-
619 その他の無店舗小売業	-	-	-	-	-	-

X：企業が特定されるため非表示（総務省統計局）

-：該当なし

資料：2016年経済センサス活動調査

◎観光業

本市は剣山山系を源とする祖谷川の源流から吉野川上流域までの広域なエリアで形成されており剣山
 国定公園を中心とした剣山、大歩危・小歩危溪谷、塩塚高原、黒沢湿原などの起伏に富んだ自然景観に恵
 まれるとともに、重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」や重要伝統的建造物群保存地区「三好市東祖谷山
 村落合」など、歴史ある文化財等が数多くある。

また、近年では、剣山系の登山や大歩危・小歩危のラフティングなど自然環境を有効活用した観光の定
 着も進んできている。

観光客のもっとも多い観光スポットは、重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」であり平成29年度には、
 約35万人が来訪しており、平成23年度より18%増加している。吉野川での「ラフティング」は平成
 29年度には約3万人で平成26年度より50%増加している。重要伝統的建造物群保存地区内の古民
 家宿泊施設は平成29年度は約3,000人が利用しており、平成27年より28%増加している。

近年の観光入込客数は、平成23年度以降増加の傾向が続いている。当市において、観光客数の増加を
 支えているのが外国人観光客の急増であり、重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」では平成23年度と比べ
 10倍を超えている。

■主要観光施設来訪者数：全体的に増加傾向が見られ、宿泊者数と同様に特に外国人観光客数が急増している。

観光施設	年度							
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	増加率
祖谷の蔓橋	303,189	331,634	327,562	301,193	348,528	339,035	357,697	+18%
内外国人	4,318	8,541	14,293	20,719	32,010	42,308	51,402	+1090%
ラフティング	-	-	-	21,938	36,245	28,333	32,853	+50%
落合古民家宿泊者数	750	903	1,086	1,454	2,320	2,764	2,964	+28%※

※8棟完工した平成27年度からの増加率。

■市全体の宿泊者数：全体的に増加傾向が見られ、特に外国人観光客数が急増している。

	年度							
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	増加率
市内宿泊者数	113,324	108,905	107,912	119,640	136,147	145,275	148,793	+31%
内外国人	1,714	2,711	4,609	9,174	13,689	22,548	27,782	+1521%

■観光ナビサイトアクセス数：平成25年度の多言語化対応を行ってから大幅に伸びている。

	年度							
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	増加率
三好市観光ナビアクセス数	586,740	626,411	596,342	729,646	751,822	768,501	-	+30%

※H29は観光ナビ更新に伴いアクセス数不明

3. 歴史的環境

◎古代の三好

本市は古い歴史を持つ。太古の昔から人が住んでいた痕跡がみられ、吉野川流域の段丘にある東上野遺跡（三野町）、洞草遺跡、新山遺跡（池田町）で旧石器時代のナイフ形石器や石ぞく（石で作った矢じり）が発見されている。弥生時代や古墳時代の集落跡も残されている。また、弥生時代後期の加茂野宮遺跡（三野町）や井出上遺跡（井川町）では徳島東部や香川、岡山地域の土器が発掘されており、西祖谷山村榎の鉾神社に収められた銅鐸には、高知県東部に分布する銅鐸と関連が認められるなど、古代にはすでに各地とのつながりがあったことがわかる。



■加茂野宮遺跡（三野町）

◎三好郡の誕生

古墳時代を経て飛鳥時代に入り、大化の改新（645）によって天皇を中心とする中央集権国家を目指す改革が始まると、それまで皇族や豪族が私有していた土地と人民は公地、公民とされ、国家の直接支配のもとに置かれるようになった。粟国が置かれたのも大化の改新以後とされ、国司が派遣された。国名の「あわ」は、この地方で粟を栽培していたことが由来すると云われている。奈良時代初期の713年に元明天皇が国ごとに地誌「風土記」の編集を命じた際に、粟国に阿波国の字があてられたと伝えられる。

阿波国が発足すると郡の制度も整備され、地方の豪族が「郡司」に任命され、受け継がれた。最初は、美馬郡の内に三好地方が含まれており、三好、美馬地方を併せて「美馬郡」と称していた。平安時代の歴史書『日本三代実録』によると、その後、貞観2年（860）に美馬郡から西部3郷（三津、三野、三縄）が分割され、三好郡となった。



■栽培されていた粟

◎中世、近世の三好

鎌倉時代には地方制度により国司にかわる「守護」、郡司にかわる「地頭」が配置された。承久の乱（1221）後、信濃の小笠原氏が佐々木氏に代わって阿波の守護職として入国し、その一族は上野に池田城（大西城とも称される）を築城したとされている。南北朝時代には、祖谷山を含む吉野川流域は、各勢力が入り、阿波は乱れた。阿波に上陸した北朝側の細川氏に対し、初め小笠原氏や白地大西氏は逆らうが、やがて姓を三好氏と改め小笠原氏や白地大西氏は細川氏に仕えて落ち着きを取り戻した。

15世紀に入ると、応仁の乱をきっかけに全国に争いが拡大し、細川氏、三好氏の郎党として三好郡の軍勢も畿内に向かった。そして中央の覇権争いの中で弱体化していった細川氏に代わり、16世紀には白地大西氏が三好郡、伊予は宇摩郡、土佐は大豊郡、讃岐は三豊郡地方を領分としたようである。しかし土佐の長宗我部氏ちようそがべにより天正5年（1577）に白地城はくちは攻め滅ぼされる。その長宗我部氏も天正13年（1585）に豊臣氏の四国侵攻はちすかに遭い、蜂須賀氏による阿波一国支配体制へ移行していった。

蜂須賀氏は領内の要地に本城を守るための支城を置いて武将を配置し、土豪に圧力をかけつつ隣境防護にあたらせた。その阿波九城のひとつとなった池田城には牛田氏、中村氏が城の城代として勤めている。元和元年（1615）の幕府の一国一城令により、寛永15年（1638）に池田城も廃城となった。しかし、池田は国境警備の要所の地であるため、陣屋が置かれた。



■池田幼稚園に見られる池田城跡石垣（大西城）



■白地城跡にある石碑

◎近代、現代の三好市

明治2年（1869）の版籍奉還により徳島藩は朝廷の一藩となり、各郡では旧来の与頭庄屋、庄屋を改めて大里長、大里長補佐が置かれ、村には里長、里長補、与頭がおかれた。

明治11年（1878）7月11日に「郡区町村編成法」が施行され、徳島県に^{みょうどう}名東、^{かつうら、おえ}勝浦、麻植、^{かいふ}阿波、^{なか}海部、^{みょうざい}那賀、^{いたの}名西、板野、美馬、三好の10郡が置かれた。三好郡では池田村に郡役所が置かれた。

明治21年（1888）4月25日の市制、町村制、明治23年（1890）の府県制、郡制により本県は1市10郡2町137村とされ、三好郡はこれまでの33の町村が13の村となった。

大正10年（1921）には郡制廃止の指示により、大正15年（1926）6月、県と町村の中間に位置する郡役所は廃止された。この頃の三好郡は、13の村から3町（池田町、辻町、三野町）10村からなっていた。

昭和25（1950）年1月1日には、東祖谷山村、西祖谷山村が美馬郡より三好郡に編入され、その後、昭和の大合併により町村合併が進み、三好郡は^{みかも}三野町、三加茂町、三好町、井川町、池田町、山城町、西祖谷山村、東祖谷山村の8町村となる。

その後の交通通信の発達により住民の日常生活圏は拡大され、三好郡では周辺町村の池田町への通勤通学及び転入転出の交流人口が増加した。

昭和44年（1969）に自治省は過疎対策の一環として池田町を中心とする三好地区広域市町村圏を徳島県の第1号として指定した。

その後、平成18年（2006）3月1日に、三好郡8町村のうち、三野町、池田町、山城町、井川町、東祖谷山村、西祖谷山村の6町村が合併し、三好市が誕生する。



■三好郡図（資料：池田町史上巻より）